

結果の概要

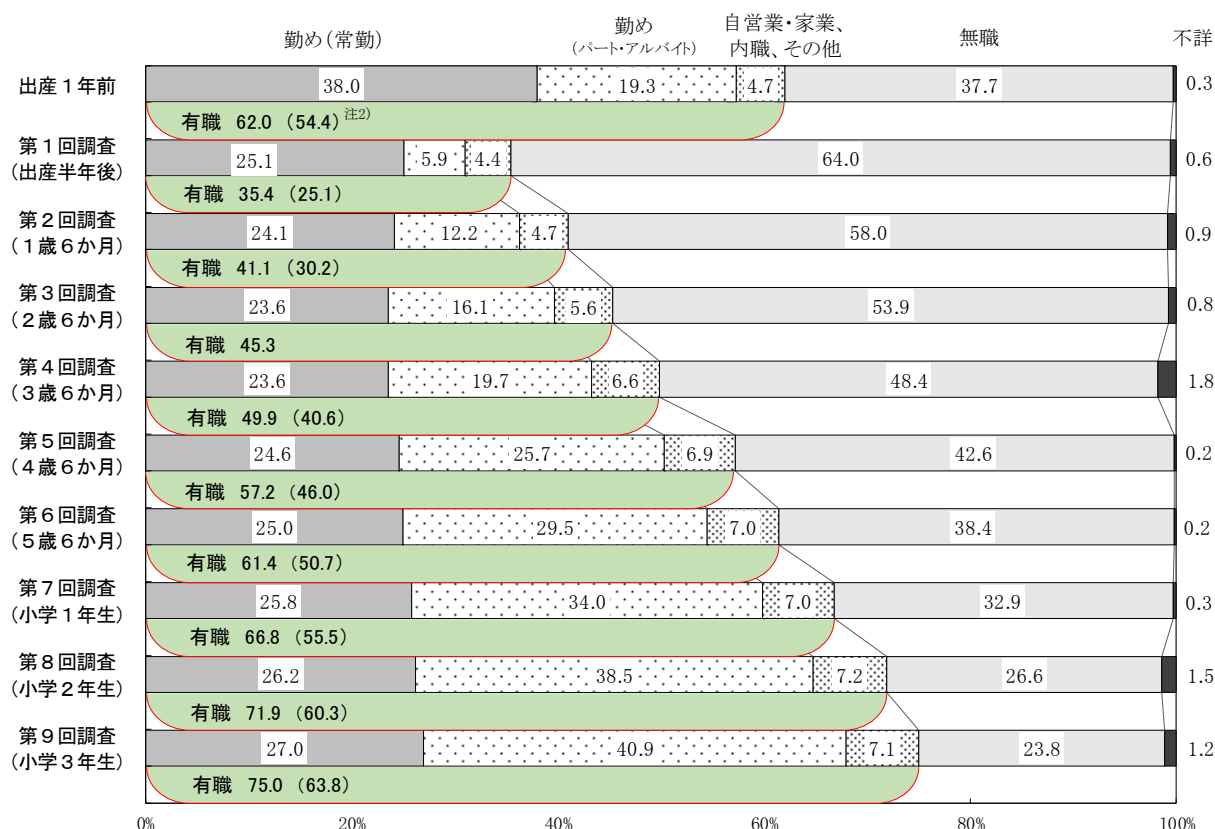
1 母の就業状況の変化

母が有職の割合は第9回調査（小学3年生）で75.0%となり、平成13年出生児（第9回）の63.8%に比べて11.2ポイント高い

母が有職の割合は、出産1年前の62.0%が第1回調査（出産半年後）で35.4%に低下したが、その後は年々上昇し、第9回調査（小学3年生）では75.0%となり、平成13年出生児（第9回）の63.8%に比べて11.2ポイント高くなっている。

母の就業状況の変化をみると、「勤め（常勤）」の割合は、第1回調査（出産半年後）の25.1%から第9回調査（小学3年生）の27.0%までゆるやかな上昇傾向であり、「勤め（パート・アルバイト）」の割合は、第1回調査（出産半年後）の5.9%から年々上昇し、第9回調査（小学3年生）では40.9%となっている。（図1）

図1 母の就業状況の変化・世代間比較



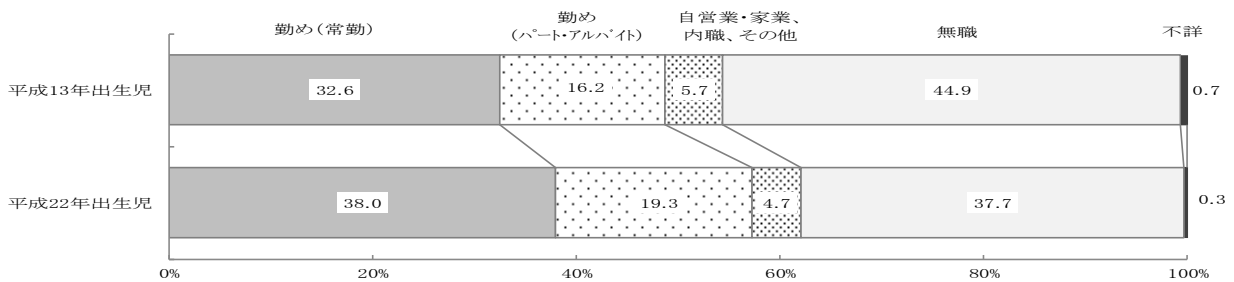
注：1) 平成22年出生児の第1回調査から第9回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（総数 19,606）を集計。
 2) ()内の数値は、平成13年出生児の第1回調査から第9回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（総数 30,847）を集計したものである。なお、平成13年出生児の第3回調査では母の就業状況を調査していない。

出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」の母のうち、第1回調査から第9回調査まで継続して「勤め（常勤）」の母の割合は、平成22年出生児では37.5%で、平成13年出生児の26.6%に比べて10.9ポイント高い

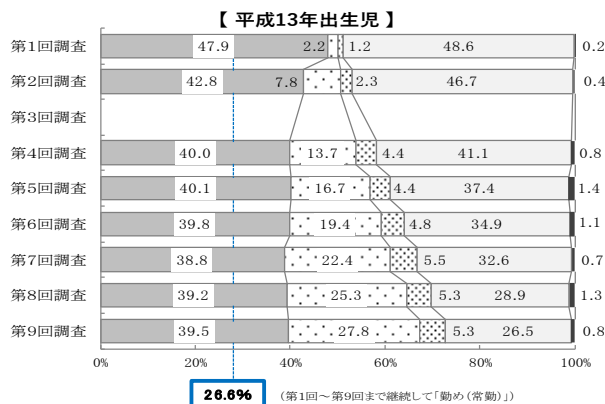
出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」の母について、第1回調査から第9回調査までの就業状況の変化をみると、平成22年出生児の各回における「勤め（常勤）」の母の割合は平成13年出生児よりも高い割合で推移し、さらに、第1回調査から第9回調査まで継続して「勤め（常勤）」の母の割合は平成22年出生児では37.5%で、平成13年出生児の26.6%に比べて10.9ポイント高くなっている（図2）。

図2 出産1年前の就業状況別にみた母の就業状況の変化・世代間比較

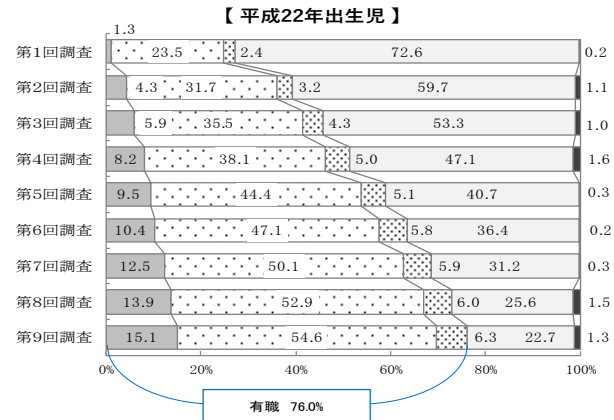
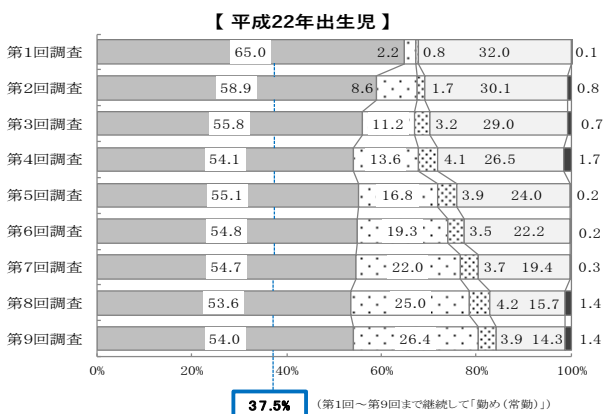
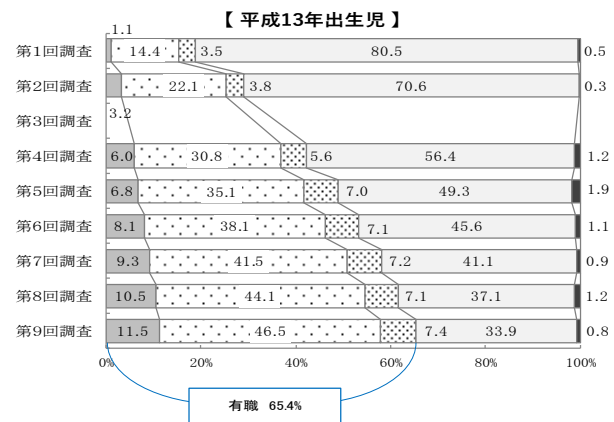
(1) 出産1年前の母の就業状況



(2) 出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」の母の就業状況の変化



(3) 出産1年前の就業状況が「勤め（パート・アルバイト）」の母の就業状況の変化



注：第1回調査から第9回調査まですべて回答を得た者のうち、ずっと「母と同居」の者（平成13年出生児総数30,847、出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」10,049、「勤め（パート・アルバイト）」4,985、平成22年出生児総数19,606、出産1年前の就業状況が「勤め（常勤）」7,454、「勤め（パート・アルバイト）」3,787）を集計。なお、平成13年出生児の第3回調査では母の就業状況を調査していない。